

戦争と学校(5) 戦時中の服装

下の写真は、高等科の生徒の服装です。足にゲートル（すねを守るためズボンの上から布を巻いていました。戦争非常時の際に、①ズボンの裾が乱れないようにする ②障害物等で足元をけがしないようにする ③長い時間歩く際に血液の流れをよくする ために着用しました。女子は「もんぺ」というズボン型のものを国からすすめられて着用しました。



↑ Wikipedia「もんぺ」より



一方、先生方には昭和15年に出された「国民服令」によって、「国民服」の着用がすすめられました。昭和17年以降には、学生や生徒の共通通学服にも指定されました。これは戦争への参加意識を高めるのと同時に、国が貧しくなったため衣服の節約もかねて制服化されたといういきさつがあります。(下写真の前列中央は、国民服姿の校長先生)

